



小池都知事への公開ブリーフィング

公益財団法人 自然エネルギー財団

2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会関連機関による環境対策への提言を行う独立組織「持続可能な東京2020評価委員会」(仮)設立と運営

一般助成

2年目

実践

シンポジウム参加者

600人

メディア報道

76本

活動の全体目標に対する達成度

60%

課題

近年、「環境」がオリンピズムの第3の柱とされ、2020年東京大会の招致活動でも持続可能性が軸に置かれたが、実際の準備・運営において持続可能性が重視されていない。

目標

2020年東京大会関連機関が環境に配慮した運営方針をとるように働きかけ、オリンピックを契機に人々の行動や企業活動における意識に変化をもたらし、持続可能性が重要な位置を占める社会への転換を促す。

活動内容

2012年ロンドン大会で持続可能性評価委員会のマッカーシー議長に成功事例を聞くシンポジウムを開催。続いて、小池百合子東京都知事に対する公開ブリーフィング及びスポンサー企業等対象のシンポジウムを開催し、2020年東京大会の方向性を議論した。毎回、メディア報道と動画配信で広範な情報発信に務めた。東京都との意見交換は継続的に行い、組織委員会のヒヤリングにも参加。関心を持つ他団体との連携も強めた。



企業向けシンポ
「五輪の調運を好機に！」

達成できなかったこと

2020年東京大会に対して提言・評価を行う動きが複数出てきたので、新たな評価委員会の設立をめざさず、協力しながら調査・分析・提言・評価を行うことにした。

今後の展望

東京大会の準備が加速する中で、この2年で関係を築いた他団体と連携し、根気強く提言・情報発信を続ける。

成果と工夫したポイント



成果

3回のシンポジウムで600名以上の参加者を得、76本のメディア報道及び動画配信を通じて多くの人にリーチした。また、11社のスポンサー企業を含む多くの企業に、持続可能性の重要性と実践例を説明できた。

工夫

2020年東京大会の準備・運営に直接影響力をもつ企業・個人に参画していただけるように働きかけた。